

川重GT・1万台販売達成



謝恩会の会場と、祈念の書

締めで中締めを行った。謝恩会には国内外から製品ユーザー、取引先企業など約1,000人が参加した。

同社は1977年、出力150kWの非常用ガスタービン発電設備の初号機を納入して以来、このほど、ガスタービ

産業用ガスタービンのパイオニア・川崎重工業は10月29日午後6時から、東京都千代田区丸の内のパレスホテル東京葵の間で、「カワサキガスタービン一万台販売記念謝恩会」を開催した。謝恩会では冒頭、ステージで、NHK大河ドラマ龍馬伝の題字を書いた書家の紫舟さんが即興で「躍進」二文字をしたためたパフォーマンスを披露し幕を開けた。

長谷川聰社長と井城譲治常務による開会挨拶に続き、来賓挨拶として東京工業大学の柏木孝夫特命教授が祝辞を述べた。カワサキマシシステムズの金森渉社長による乾杯の発声で会場には懇親の輪が広がった。約2時間後、川崎重工業の久山利之執行役員による一本

の累計販売台数が一万台を突破した。当初の非常用に加え、現在では常用のコージェネシステム向けなど幅広い製品ラインナップを取りそろえている。特に世界最高水準の発電効率40%超を達成した環境対策型グリーンガスタービン「L30A」は、今年9月8・9両日、ロシア・ウラジオストク市で開催されたAPEC「アジア太平洋経済協力会議」会場のエネルギー施設で採用された。このコージェネシステム（出力3万kW合計7基）は世界中のエンジンメーカーから注目を集めている。カワサキガスタービンの歴史は純国産ガスタービンの歴史であると同時に、世界市場で伝説の日本ブランドの一角を占めている。

長谷川 聰 社長の挨拶（要旨）

私ども川崎重工グループは現在、船舶海洋・車輛・航空宇宙・プラント環境・モーターサイクル&エンジン・精密機械・ガスタービン機械の七つのカンパニー体制で、社会の変化に伴うお客様のご要望に応じております。世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献するグローバル川崎というグループミッションを掲げており、陸海空の輸送システム・エネルギー環境・産業機器の三つの主要事業分野において、高度な技術力により世界の人々の多様なニーズにかなった製品サービスを提供する企業でありたいと考えております。



特にエネルギー環境分野においては、エネルギーの有効利用と環境負荷の低減が求められている中、ガスタービン、ガスエンジン、蒸気タービン、地熱バイナリー発電、小水力発電、電力系統向け蓄電池などの既存製品、さらにはCO₂フリー水素チェーン、潮流発電といった新事業、新製品開発など幅広い事業、製品の展開を目指しております。国内はもとより世界のエネルギー環境分野の将来に、当社のガスタービン機械カンパニーの製品群が果たす役割は大きく、今後重点を置くべく

事業の一つとして位置づけております。

発電用ガスタービンは、1977年に非常用電源として初号機を納入以来35年目になります。現在では3万kWクラスまでをシリーズ化し、中・小型ガスタービン分野では日本のトップメーカーとして社会に貢献しております。昨年の東日本大震災による停電時には当社のガスタービン非常用発電設備が福島原子力発電所をはじめ多くの場所でその役割を果たしました。震災以降、BCP（事業継続性）や、電源セキュリティの観点から、企業のバックアップ電源に加え、自立分散型電源としてコージェネシステムが一層注目を浴びております。引き続き、お客様のニーズに最適なソリューション提案・製品サービスの提供を強化して参ります。

また、ガスタービン事業は国内のみならず海外展開も積極的に行っており、従来の欧米・東南アジアを中心とした展開に加え、現在ロシアへも注力中であります。これからもお客様のご要望と信頼に足る製品サービスの提供を通じて社会に貢献し、当社グループとしてのさらなる『躍進』を果たしていきたいと考えております。

本日、一万台販売記念謝恩会を開催することができましたのも、ご臨席いただいております皆様方のご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。改めまして皆様方にお礼申し上げますとともに、各社様のますますのご発展並びに皆様方のご健勝を祈念いたしまして私の挨拶の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。